

——だからさ、この海は
俺の庭みたいなの？

誰も知らない穴場とか
チヨ——知ってっからさあ

……



(はあ………)

(騎士クンとまた海に
来れたのはいいけど……)

急な用事ができたとのことで
騎士クンはランドソルに
帰ってしまった……)

(向こうでの用事が
片付いたら騎士クンは
戻ってきてくれるらしいけど……)

(何度も、何度も
謝りながら……)



（一緒に帰ろうとするわたしを
騎士くんは引き止めた。
せつかくだからここでしか
できないことを楽しんで欲しいと）

（わたしだけの夏を
経験してほしい……
その思い出を自分に
聞かせてほしいと……）

（でも騎士くんが
いない場所で何を
楽しめばいいのだろう……）

ねーカクシヨ？
聞いてる？

（騎士くんはそう言われて
しまったら断れない）

はあ……



何度も
言っている
はずだけど

お？

わたしは騎士クンとの
思ひ出を作るために
ここに来た

そう知ってるの

ん……
騎士クンってあいつだろ？

たまに海の家で
バイトしてる黒髪のやつ

お前のために
割く時間はない

なら話は早い
他をあたつて
ちようだい

やあでもさあ…
それならなおのこと
俺と仲良くしてみた方が
よくない？

…言っている意味が
分からない

や、俺もあいつと「一緒に
バイトしたことあるけどさ
あいつめっちゃいいやつじゃん？

誰とでも仲良くなれるつつうか？
それこそ性格悪い嫌な奴とかでもさ

んで？
俺の見た感じおねーさんって
そーゆータイプじゃねえつつうか？
むしろ逆？

結構人と壁作って
寄せ付けないタイプに
見えるつつうか？

そんなんじゃあいつと
距離詰めのんに
苦労してんじゃねえかなって

……そうね

……

そこでこの俺の出番!!

お姉さんがばつと見
苦手そうな相手と
試しに仲良くしてみることで
あいつへの理解度爆上げ!!

心の距離の近づいた二人は
この夏急接近つうワケ!!

ついでに俺が知ってる
この海の穴場スポットも知れて
二石二鳥!!

どう?

悪い話じゃないのじゃあ?



（詭弁ね）

（確かに騎士くんは
たくさんの人を
信頼しているし、されている）

（騎士くん以外
信頼していない
わたしと違って……）

（それは騎士くんの
魅力ではあるけれど……）

（誰彼構わず親しくすることが
必ずしも良い結果を生むとは
限らない）

（数え切れないループの中
それが原因で命を
落としたことだって
あるのだから……）

（でも）

（騎士くん以外に
関心を持たないこと……
興味を持つとうとしらないこと……）

（それが騎士くんと
近づききれない理由だと
言われたら……）

（わたしはその可能性を
捨てることができない）



(知識として知ってゐるのと
経験として知ってゐるのでは違う……)

(そのことはこの夏で
思い知った)

(ならこの男のいう通り
信じてみるとどうのも
実際には違う?)

(リスクを上回る効果が
得られるものなの?)

(経験してみなければ
分からないことなの?)

(騎士クンと同じものを
見つめるためにそれが
必要だというのであれば……)



……少しだけよ

お?

取るに足らないと
判断したらすぐに――

やっつりい!!
大丈夫大丈夫!!
ぜってー損させねえから!!

あ、名前教えてくれる?
いつまでもお姉さんじゃ
味気ないっしょ?

……
苦手な相手と仲良くなる
ファーストステップと
思っでさあ……
お願い!!

……エリス

エリスちゃん!!
すっげーいい名前じゃん!!
クールで美人のお姉さんに
ピッタリっつうか
ていうかその水着も――



（この男の言っていることを
真に受けたわけではない）

（依然としてこの男に
付き合う価値はないと
わたしの理性は判断している）

（でもなにも
得れなかったとしても
騎士クンとの話題に
なればそれでいい）

（もしこの男がわたしに
害を加えるつもりであっても
問題ない）

（シャドウとの戦いで消耗した
魔力は足りきつていないけれど
この男程度であれば対処は容易）

（リスクは低く、得るものは
それなりにある）

（そう判断しただけの話）

（そう、何も問題はない）





はーこれこれ!!
最初に見た時から
このおっぱいは揉みたくて
たまらなかつたんだわw

ふふふふふふ
この……離……せ……

えーやだよーw
こんな大きさも形も
柔らかさも
満点の極上おっぱい

離せつつうのは
無理があるっしょw

（この部屋……
魔法が上手く使えない……）

（恐らく一定空間内に魔法を
無効化する結界を形成する魔道具……
そんな高位のアイテムを
こんな男が持っているなんて……）

（せめて魔力が
回復しきつていれば
力技で強引に突破できた
かもしれないのに……）

ぬら……
ぬら……

はあ
むきゅん

ちゅ

ん

この部屋俺のお気に入りの
アロマ焚いててっからさあ

ここに入っただけは
漏れなく発情しまくっ
てエロっエロのきもちー気分にな
れちゃうワケw

ヒュー

どう？
エリスちゃんも
気に入った？

(この異常な発汗と体温の上昇は
それによるもの……？)

んっ

もみもみ

はあ……はあ……
そんなことより……っ

この部屋の結界を……
ぶぐう……解き……なさい……っ

……？
結界？ なんそれ？

……結界はこの男のものではない？
この男以外の第三者の
意思が介在して……んあっ!!!

くちゅくちゅ
ぬるぬる

どろろ……
指を入れて……

はあ……
んあ……!!

はあ……

い……い……

あ……

乳首もピン……と……
きちやつてさあ

アロマの効果もあんだらうけど
ここまで感じちゃうコは
ちよつと珍しいめっちゃうか?

エリスちゃんの
感じてる声超可愛い……

ははっ
ちよつと触ってあげただけで
もう濡れ濡れじゃんw

い……い……

い……い……

エリスちゃんでさあ
実は元々すっげえ感じやすい
体質なんじゃねえの?

そんな……わけ……

い……い……

い……い……

い……い……

（否定しきれない……
それに足る情報をわたしは
有していない……）

（わたしの身体は草野優衣の
アバターデータを
元に構成された物……）

（忌々しいことに味覚情報をはじめ
肉体的な感覚は草野優衣に
準じるものが多い……）

（もしこの男の言う通りだとしたら……
草野優衣の肉体が元々男を
受け入れやすい身体だということ……）

（……
草野優衣……
どこまで
わたしを貶めれば……）



空



太 太

下のお口もよだれ
だらだら♪

へへっ、イイ感じに
力抜けて来でんねえ

カラダの方はすっかり
準備おつけーつつう
感じじやんw

かくいう俺もそろそろ
我慢できなくなつて
きちまつたし？

ほんじゃ
お待ちかねの
本番開始ついでw

ベッド入るか
エリスちゃん？

はあ...はあ...
んあ...え...？

きやうに





あま

K#12

やっぱw
改めて見ると
エリスちゃんの
身体チヨ一綺麗!!

顔もクッソ美人だし!!
今までの女ん中で余裕で
過去イチだわ!!

.....



「……いやマジやべえわ
冗談抜きで」

「なんだこの身体
女神かなんかかつうの」

「これとやれるつうんなら
今キープしてる女全員手放しても
ヨユーで釣ってくるわ」

「これ抱いてねーとか
騎士クンとかいうやつ
ぜってーインポだろ」





(ま、そのお陰で
こうして俺がエリスちゃんと
こうなる機会が出来たわけだし?)

(騎士クンには感謝しかねーわな
ありがとー騎士クン!)

(今からキミのこと
だーいすきな美人ちゃん
俺がパツクンチヨ
いただいちゃいますw)

エリスちゃん
股開くよ?



三人がなかよしするのに
邪魔な水着さんも
バイバイしましょうねw

（はー絶景絶景）

（極上モンの女が
無防備に股開いてるのは
たまらないねw）

（へへっすっかり
もう据え膳っつうか？
なすがままって
感じじゃん）

ぬちゅあ…♡

ぬちゅ…♡

しゅ…♡

ほら
エリスちゃん
見てみ？

……！！

ハッ

ん~~~~

俺のもうパンチパン
興奮しまくって
爆発寸前だわ

今からこいつで
エリスちゃんのこと
天国に連れてって
あげっからね

……

ハッ

ハッ

(あれが…男の生殖器…?)

(…騎士くんが
お風呂に入っている時に
見たことがあるけど…)

はあ…

はあ…

(全然…違う…)

(凄く太くて…大きい…)

(なに…
この気持ち…?)

(あれほど大したことないと思
っていたこの男がすごく
大きい存在に見えて…)

ザッ

ザッ

(おかしい…
なんだか無性に…
喉が乾く…)

(どうして…
お腹の奥が…
こんなに…疼いて…)



エリスちゃん
挿れるよ？

.....

(騎士).....





はっ...あつ...!!
ん...!!

ヒッ
ヒッ

ん...!!

ヒッ
ヒッ

はっ
はっ

(身体の中が...
この男のモノで
埋め尽くされて
いるみたい...!!)

大丈夫
エリスちゃん?
苦しくない?

(やっべW
中絶絡みついで
くんだけどW)

(この顔と身体に
極上名器まで
くっつけてんのか
マジ神過ぎるW)

ニッ
ニッ

ニッ
ニッ

わかるエリスちゃん？
今あ、エリスちゃんの
大事なおまんこの中に

俺のチンポがあ
ずっぼしぬっぶり
入っちゃってんのよ

はあ...はあ...
んぐ...んぐ...

まー最初は
ちよつちキツいかもだけど
すぐに慣れっから

逆にヤミツキになって
仕舞にや自分から
「あはあんチンポ入れてえ♡」
ってなっからダイジョーブw

そ...んなこと...はっ...あ...
あるわけが...んうっ...

ははっこの期に及んで
いじっぱりだねえ

んじゃその意地が
いつまで続くか
試してあげよっかなw



はっああっ!!!

あっ...あああっ...!!!

はいまたいつたー

これで四回三ね
いやあ面白いくらい
簡単にイクなあw

我慢は身体に
悪いからねえ

遠慮しないで
どんどん
気持ちよくなつてね



（二体どれだけの時間
こうしているのか）

（時間の感覚すら曖昧に
なってしまうている）

（男性器をわたしの膣に
挿入した男は予想に外れ
しばらくの間激しく
動くことはなかった）

（ただ時折腰を回すように
動かしたりしながら
わたしの様子を伺っていた）

（しばらくそうしていると
次第に痛みや異物感はなくなり
代わりにむず痒いような感覚が
股間を中心に広がっていった）



（わたしの様子が
変わったことを
察知するとそれに合わせ
男も動きを変えた）

（ずるりと男性器をゆっくり
ぎりぎりまで引き抜くと
またゆっくりと
奥まで押し込んで……）

（男のモノがわたしの中を
往復する度に身体の中身が
すべて引きずり出されるような
感覚がわたしを襲った）

（次第に身体全体に
じわり……じわりと奇妙な
甘い感覚がひろがって……
それがどどん
大きくなっている……）

（……気が付けば激しく
突き入れられるようになった
男性器にわたしはみったもなく
喘がされてしまっていた）

エリスちゃんのまんこ
めっちゃ俺のチンポに
吸い付いてくんじゃんw

もうすっかり俺の
チンポにメロメロ
って感じ？

はあッ

はあッ

はあッ

ちっ...が...はあッ
こんなの...はあッあッあッ

抵抗しても無駄だよ
もうエリスちゃんの
弱いトロゼーんぶ
わかっちゃったから
このことかあッ

ひああッ!!
はあッあッあッ♡

はあッ

はあッ

あッw

はあッあッ!!
やめッ...あッあッ!!



（あーいきまぐりの
エロまんこきもちw）

（たまんないね
さつきまで
「あなたには微塵も
興味ありません（せ）」
みたいな澄ました面してた女がさ）

（今や俺の下で
股パツカーンしながら
俺のチンポ突っ込まれて
アーン喘いでやがんのw）

（好きな男いる女に
チンポぶち込んで
犯すの愉しw）

気づいてる
エリスちゃん？

さっきから俺のチンポに
合わせて自分で
腰動かしちゃってるよ？

迎え腰ってやつ？

.....
そんなにいいのかな...

わかるよ！
気持ちよくて無意識に
やっちゃってたんだよね

きもちー所に俺の
チンポゴシゴシ
擦り付けたく
なっちゃったんだよねw

ちがう...ちがう...
あつあつあつ!!!

ちがわねーだろw



なーエリスちゃんってさあ
あの騎士クンってやつと
付き合ってるワケじゃねーんだろ？

く、あつ...あつ...
きゅ、急に...何を...
ひあつ!!

じゃあさあ
これって別に浮気でも
なんでもねーワケじゃん？

我慢なんですか
必要くない？

そんな...そんなこと...
んああ...そこ突くの...やめ...
はっ、あつ、ああつ!!

いつのこと
ぜーんぶ忘れて
気持ちよくなっちゃうよ

何に縛られてるか
しんねーけどさ

俺にはエリスちゃん
随分窮屈そうな生き方
してるように見えるなあ



（全部……忘れて……）

（そんなことありえない……
騎士くんはわたしのすべて……
わたしにぬくもりを
与えてくれた人……）

（わたしは縛られてなんかいない
わたしはわたしの意思で騎士くんを
求めている……そのはずなのに……）

（回からその言葉が出てこない……
この男を……この人を拒みきれない……
この人がくれる鮮烈な快楽を……
熱を求めてしまっている自分がいる……）



わたし…っ
わたし…はあ…っ!!

はあ…あ…あ…
ん…あ…あ…!!

(突かれる度に
その衝撃で思考が
霧散してしまう)

(なにを考えていたのか
思い出せなくなる)

(代わりにこの行為がもたらす
快楽に頭が支配されていく)

(わか…らな…い…)

(も…う…な…い…)

(ただ…今間違はなく
確かなことは…)



きもちのいいオマージュ♡

はあ♡きもちのいい♡

やーっと素直なつたか
いよいよその調子
もつとたぐさん喘いで
気持ちくなるーねー

はあ♡ああ♡♡
きもちのいい
きもちのいい♡

あゝ♡

あゝ♡

はあ♡

あゝ♡

あゝ♡

あゝ♡

あゝ♡

あゝ♡

あゝ♡

あゝ♡

あゝ♡

あゝ♡

あゝ♡

（ははっいいね
キモチのことしか
考えられないって
雌の顔してらw）

（あーごめんねえ
騎士くん）

（これ多分今日で
エリスちゃん俺のモンに
なっちゃうわ）

（っーかお前みたいな
モヤシ野郎にこの最高のカラダは
もったいな過ぎるっつうの）

（ま、安心しなよ）

（お前の代わりに俺が
エリスちゃんのこと
たっぷりぬっちゃより
気持ちよくして
幸せにしてあげっからさw）

あーやば

エリスちゃんがイキまんこで
俺のチンポ締めまくっから
俺もイー感じに上がってきたわ

こんままだに
出すけどいいよね

っはあ、あつ、あつ♡
だ、出す？ あつ、あつ、あつ♡

エリスちゃんの子宮に
俺のチンポピタ付けして
俺の特濃ザーメン
びゅっびゅするってことよ

ザーメン……
せ、精液……
はっ、あ、それはあ……

イキっぱなしの
まんこにザーメン出されんの
チヨイ気持ちいいらしいよお？

一回経験したら
それナシじゃ物足りなく
なっちゃうくらいだよ

はっああっ♡
あっそんなにっ♡

そーそー
せっかくなにも
来たんだし
経験しないのは損っしょ

あっあっあっ♡
くっくっくっあっ♡
だっだっだっ♡

……んー
もうちよつとアがる
言い方して欲しいなあ

ぬちっ♡

ぬちっ♡

『田っ田っ田っ』
……だろっ





（な……か……で……え……っ♡
熱いの……精液が……っ♡
叩きつけられるみたいにな
注ぎ込まれて……っ♡）

(熱くて濃厚な精液が
子宮の壁を叩く度に……♡
何度も……何度も絶頂が
押し寄せてきて……♡)

（これが……性交……♡）
セ、セックス……♡
男女の、生殖行為……♡）

すてきな恋

はーやっべ
これいくらでも
出せそうだわw

イキまんこに
射精すんのきもちーw

エリスちゃんも
気持ちいい？

んああ……♡
はっ、あ……ああ……♡
ああ……♡♡♡

イク……♡
イク……♡

そろそろそろかw

イク……♡

イク……♡



（騎士くん……
わたしはあなたの
ことが好き……）

（それは世界が
終わろうとも
変わることはない……）

（だけど……）

（だけど今だけは……
もう少しこの熱に
溺れていたい……）





おね
がい♡

.....

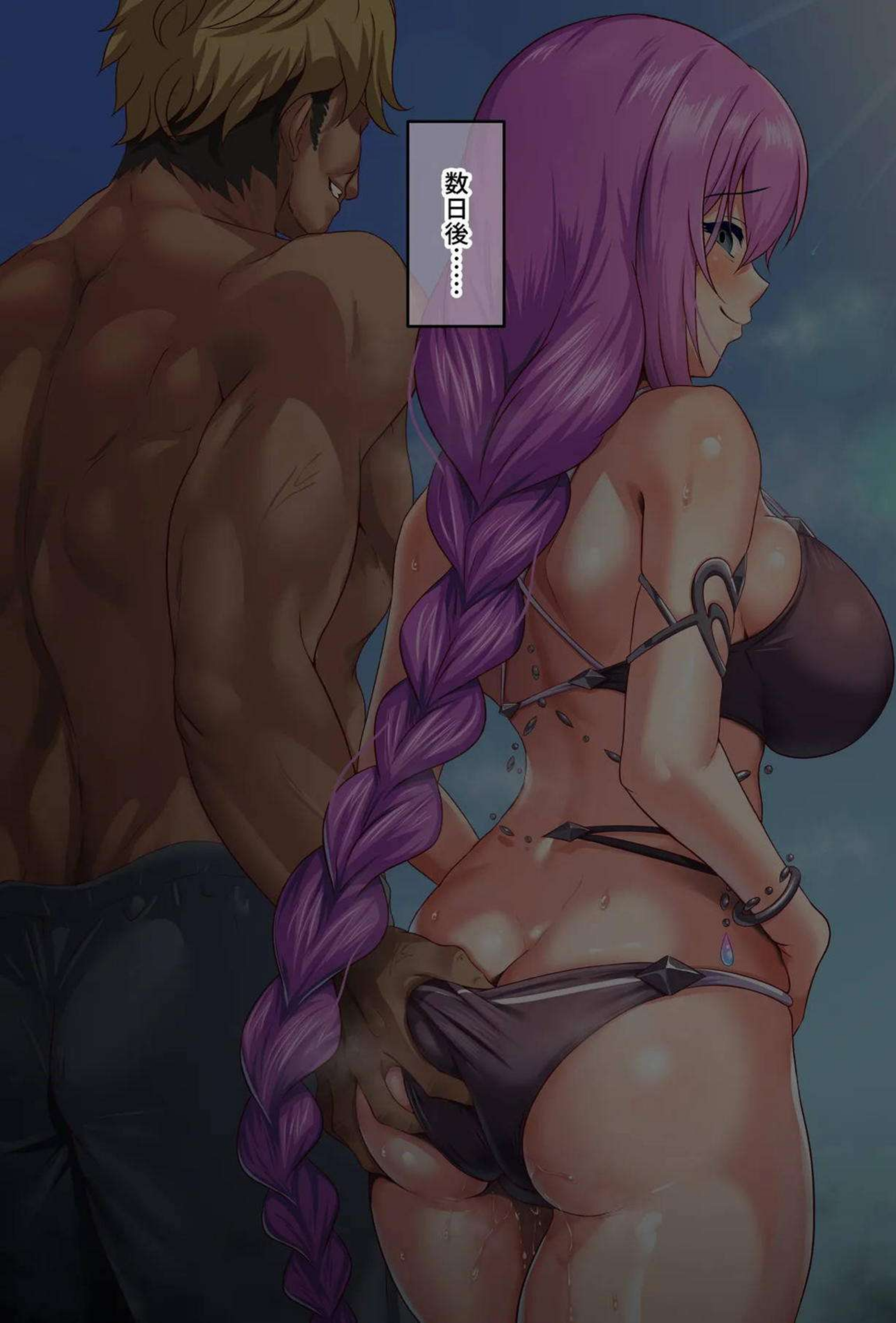
りょーかい♪
今日は朝までたろぷり
愛し合おうね
エリスちゃん♪

キッ♡

キエウッ♡

ommo
W

数日後……



あ…騎士くん…
戻ってきてたんだね…♡

ふふふ…♡

人の来なさそうなところ
調べておいたから…
そこでね？♡

マジ？
さっすがエリスだぜ！！

ハロ…♡

♡♡♡
今この人に
たくさんのこと
教わってるの…♡

騎士くんが
教えてくれなかった
こと…たくさん♡

だから…♡

♡お♡

なあエリス
そんなモヤシ野郎
ほつといで
とつとと行こうぜW
もう我慢できねえよW

あ♡♡
もう…騎士くんが
見てるよ…♡

今日もたっぷり
イチャイチャしよーなり

…うん♡
あ…それじゃあ
騎士くん、またね…♡

エリスみてえな
美人連れまわすの
マツ愉しいわw

男も女もみーんな
嫉妬の目で見てきやがるしw
最高に気分いいわw

もう…恥ずかしいよ♡

でも……
あなたが喜んでくれるなら
わたしも嬉しいな♡

セクシー

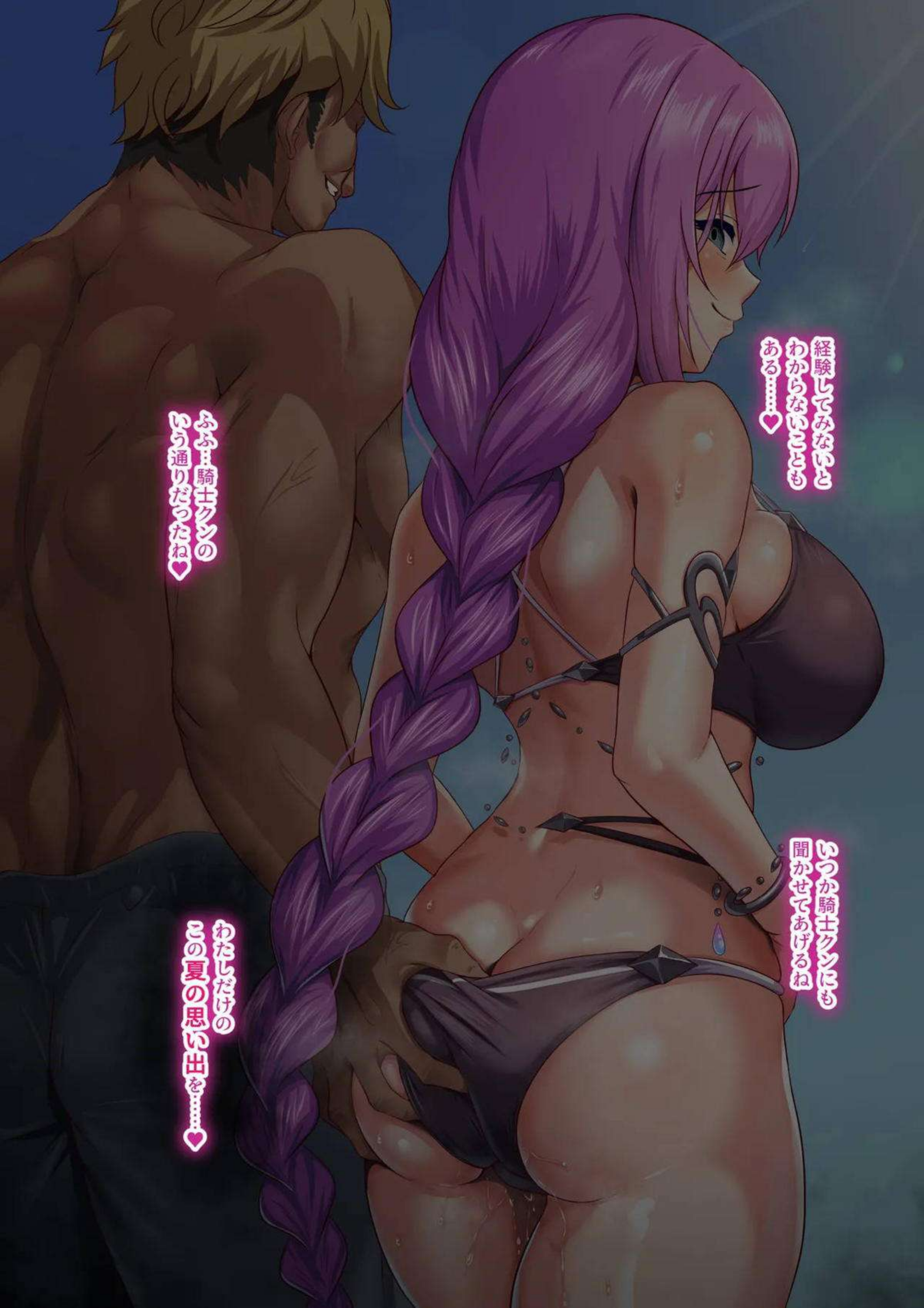
セクシー

♡ん♡

もみ♡

もみ♡

いっ♡



経験してみないと
わからないことも
ある……♡

ふふ……騎士クンの
いう通りだったね♡

いつか騎士クンにも
聞かせてあげるね

わたしだけの
この夏の思い出を……♡









































































